

様式1

尾道市立因北小学校 平成27年度学校評価表「因北小学校みらいプラン」

学校教育目標	夢と志を育む因北小教育の創造		
a ミッション	(1) スクールミッション 「児童の伝え合い(交流学習)の充実を通して習得した知識・技能を活用する授業の創造」 (2) 児童の学力・体力・生活面で、平均水準またはそれ以上の力を付ける。 (3) 地域・保護者から信頼され、応援していただける学校となる。	a ビジョン	(1) 児童に基礎的な力を付け、そのことで自己有用感を持たせることを通じて、将来的に夢と志をもつ人間を育てる。 (2) 児童に基礎的な力をつけることによって、地域・保護者の信頼を得る。

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画				
学	力	b 中期経営目標 (平成29年度末までに)	c 短期経営目標 (平成27年度末までに)	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 評価			l コメント	m 改善案
							g 達成値	g 達成値				適正	適正でない	分からない		
学 力	児童に、広島県平均以上の力を付ける。	「標準学力調査」で、対象の全ての学級が、国語・算数共に県平均※以上となる。 ※全国平均値でも可 ★H26本校は24項目中、8項目だった。	「標準学力調査」で、22項目(11学級×2教科)中、12項目で県平均※以上となる。	①音読・ます計算を中心としたチャレンジタイムを実施する。 ②発展問題を作成し、反復練習をする。	「標準学力調査」で、22項目(11学級×2教科)中、12項目で県平均以上	100%		14項目	117%	A	◎①チャレンジタイムの充実 ◎②「ねらい」と「まとめ」を意識した授業改善 ◎③思考を深めるような発問や、より児童の発言を促す等の取組により「標準学力調査」で全国平均を上回った項目は22項目中14項目 ・内訳：国語6/11、算数8/11項目上回る ・昨年度と比べ特に「活用問題」の正答率に伸びが見られる ●高学年になるにつれ、全国平均を下回る率が増加 →確実に当該学年の学習内容を理解させることが必要 ○結果の分析→効果のあった取組の共有化→一貫した取組の継続	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学力が付いてきていることは、集計された資料から読み取ることができた。この取組を継続して、学力調査で全項目平均を上回るようにしていただき、児童が夢と志を持った人間になれるように育ててください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジタイム、漢字前倒し等、効果のあった取り組みを一貫して継続する。</li> <li>学力向上に向けて効果のあった取り組みを学年、学校全体で共有化する。</li> <li>家庭学習の内容や方法に関わる研修を行う。</li> <li>指導力をつけるための校内研修や講師を招いて課題に対する新たな取組の研修を行う。</li> </ul>
		「新体力テスト」96項目(全学年男女別)のうち、80%=77項目で県平均以上となる。 ★H26本校は46項目だった。	「新体力テスト」96項目中60%=58項目で県平均以上となる。	①新体力テスト結果を分析し、課題を焦点化して取組を進める。	「新体力テスト」96項目中60%=58項目で県平均以上	100%	66項目	79項目	136%	A	◎サーキットトレーニングの実施による体力の向上 新体力テストで県・全国平均を上回る項目 79/96 (1学期比+13項目) ◎新体力テスト実技研修の実施 ◎外遊びの実施(全学級が計画的に週1回以上) ●ボール投げに課題があり、実施方法を改善 ○重点的に取り組む種目の選定 → サーキットトレーニングの改善(ボール投げ) (投力を高めるための運動もきめる)	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が体を動かして遊ぶ環境が整っていないので、体力的に弱くなってきているのでは心配であった。しかし、継続的にサーキット・トレーニングを実施していることで、体力的に上がっていることに安心した。このトレーニングは継続してほしい。</li> <li>鉄棒など腕の筋肉をつけていくことも、ボール投げの結果に結び付くと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーキットトレーニングを継続するとともに、学年ごとの課題を受けてサーキットトレーニングの内容を学年ごとに変えて取り組む。短いスパンのPDC Aサイクルを活用する。</li> <li>サーキットトレーニングの内容を見直し、充実を図る。</li> <li>外遊びを推進し、遊びを通して体力を付けさせる。</li> </ul>
		自己管理の典型として「テレビとゲームを合わせたメディア接触」に着目し、3時間以上の児童の割合を10%未満にする。 ★H26本校は30.4%だった。	「テレビとゲームを合わせたメディア接触」時間が、1日あたり3時間以上の児童の割合を25%未満にする。	①家庭学習の質と量を充実させる。 ②実態調査をもとに児童への指導を行い、改善結果を発信する。	「テレビとゲームを合わせたメディア接触」時間が、1日あたり3時間以上の児童の割合25%未満	100%	27.6%	31.6%	79%	C	◎家庭学習の提出状況 全校 92.6% 【目標値+2.6ポイント】 ●未提出児童の固定化 → ○個別の声かけ、家庭への働きかけ ◎メディア接触の時間が3時間以上 全校 31.6% 【目標値-6.6ポイント】 ●中学年の児童の割合が高くなった。(13%増) ●6時間以上のメディア接触は減った。(11名→9名) ●メディア接触3時間以上のうち1時間以上ゲームをする児童(70%) ○保護者への働きかけを継続(各種たより、懇談会) ○メディア接触に関わっての道徳の授業を行う	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームをする時間が1時間以内になるといいですね。</li> <li>保護者にもメディア接触について考えてもらい、協力してもらう必要があります。いろいろな場で話すなどして、しっかり働きかけてください。</li> <li>家庭学習の量が調整されたことで、子供達一人一人が机に向かう習慣が付いてきているのではないかと思います。このまま続けて取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長時間ゲームやテレビに時間を費やしている児童に対して、学校での個別指導を継続する。</li> <li>道徳の時間で、メディア接触についての授業を行う。</li> <li>各種たよりや懇談を通じて、メディア接触が多くなると生じる課題について保護者啓発を進める。</li> </ul>
自尊意識		自尊意識の度合いを示す調査結果を、県平均以上にする。 ①全国学力調査★H26本校は73.8%だった ②「基礎・基本」定着状況調査★H26本校は67.3%だった	質問「自分にはよいところがある。」肯定的回答を、概ね県平均レベルにする。 ①全国学力調査 77% ②「基礎・基本」調査 70%	①日常的に、児童に対して肯定的な評価を行う。	質問「自分にはよいところがある。」肯定的回答 ①全国学力調査 77% ②「基礎・基本」調査 70%	100%	基礎基本 76.2%	82.1%	112%	A	◎活動達成度100% ◎児童のがんばりを評価する取組の充実(褒める場面の充実) (例)「掃除のプロ」や「挨拶月間」 ◎児童アンケート・保護者アンケートともに、「自尊感情に関する」肯定的評価の高さ(別紙参照) ◎質問「自分にはよいところがある」の肯定的な評価の割合 82.1% ●現状に満足することなく、新たな取組を考え、推進していく。	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>児童と保護者アンケートの肯定的評価の割合が高い。これまでの取組がうまくいっていると考えられるので、今後も続けて欲しい。</li> <li>地域で挨拶ができる児童が増えている。これも、児童の成長を示している。</li> <li>保護者や地域と連携し、学校の取組が家庭・地域へも広がっていくように期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名簿へのチェックを引き続き行う。</li> <li>取組が定着してきたので、児童を「褒める」取組を学年、学校全体へ広げていく。</li> <li>家庭、地域、学校が一体となって、児童のがんばりを認める取組の徹底していく。</li> </ul>

【自己評価 評価】  
 A: 100 ≤ (目標達成)  
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80

B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100  
 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。